

第二十二回全国指導者技術研修会・講習会開催

平成 24 年 11 月 18 日、東京板橋の日本大学医学部体育館において、「第二十二回全国指導者技術研修会・講習会」が開催された。当日 80 名に及ぶ指導者たちが全国から参集し、二代宗家・大塚博紀最高師範から親しく教授を受けた。

最高師範はまず平安初段、四段、公相君の形の要求する意味と動作の要点を詳しく説明され、各人の至らぬ部分を手ずから正された。午後からは基本組手の裏、居捕、短刀捕を徹底的に叩き込まれた。これは最高師範から、来年の研修会で、いよいよ和道流柔術拳法の免状を授与されるとの明言があったことを受けての親心というものであろう。受講者は真剣な表情で取ったり取られたり、投げたり投げられたりしながら技の習得に励んでいた。

この研修会で学んだことは当然自分の道場へ持ち帰って、一般会員たちに伝えて行くことを期待されている。自らも修練しながらであることは論を待たない。最高師範が常々言われるところの「体得、口伝、見取り稽古」の意味を熟考されたい。



